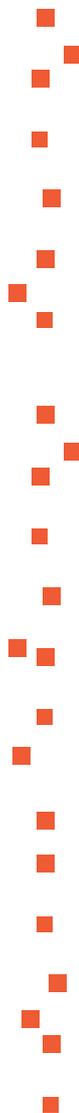


一般社団法人

異オネットワーク



活動 報告書 2021

2021.4～2022.3

- 大津オルタナティブスクール「トライアンフ」
- カフェ「アンビシャス」
- 不登校の親の会「ワクワク」
- 大人の発達凹凸の会「イロイロ」
- 生きづらさをかかえるギフテッド・2Eの会「シャイン」

もくじ

1. ごあいさつ
2. 異オネットワークのミッション
3. 異オネットワークのあゆみ
4. 事業報告

① 大人の発達凹凸の会 IROIRO～イロイロ～

② 不登校の親の会 WAKUWAKU～ワクワク～

③ 生きづらさを抱えるギフテッド・2Eの子をもつ親の会

SHINE～シャイン～

④ 大津オルタナティブスクール TRIUMPH～トライアンフ～

⑤ 不登校の子どもたちが運営する自家焙煎珈琲の店

カフェ・アンビシャス

⑥ セミナー事業

5. 決算報告（損益計算書・貸借対照表）
6. ご協力をお願い

1. ごあいさつ

「私が不登校になった時に、誰とも会いたくなかった。だけど、ずっと家にいるのもしんどくて。そんな時にお母さんがこんなところあるよ、と教えてくれたのがトライアンプでした。ここがあって本当によかった。私にとって、トライアンプはとっても落ち着ける場所だし、自分のままでいられる場所です。こういう場所があるんだよと、学校がしんどいみんなに知ってほしいです。」

これは、今春、不登校期間を経て念願の芸術系高校への進学を果たしたトライアンプ卒業生の子が伝えてくれた言葉です。この言葉を聞いた時、私の胸は熱くなり、また会場全体も涙に包まれたことは言うまでもありません。トライアンプの年1回の研究発表会で、多くの方々に前に堂々と卒業生代表の言葉を発表してくれたこの子の姿を、私はずっと忘れないでしょう。

異オネットワークは、市民活動からスタートしました。団体設立から4年、そして法人化からは2年が経とうとしています。活動開始から一貫して「多様性を認め合える社会の実現に向けて」を理念とし、「生きづらさを抱える」子どもから大人まですべての方に寄り添う活動をしてまいりました。新型コロナ禍の影響を受けながらも、活動を止めずに地道にやってこれましたのも、ひとえに支えてくださるサポーターの皆様、地域の皆様のおかげだと感じております。

今年も皆様のもとに、こうして報告書をお届けできほっとしております。異オネットワークの活動を担うスタッフも、生きづらさを抱える子どもを育てる母親が多くを占めています。難しい子の子育てをしながらも、活動を継続したり社会へ声を挙げ続けたりするのは簡単ではありません。しかし、確実に我々の活動は広がりを見せ、NHKにも取り上げられ、日本全国の方々にも目に留めていただけたところまで来たことを実感しております。また、令和3年7月より、「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議」が開催されております。当団体も、会議を傍聴し、委員である有識者の先生と意見交換したり、当団体につながる保護者の皆様の意見集約を行って文科省に提出したりするなどして、ソーシャルアクションを起こしました。

小さな力ではありますが、当事者の気持ちを一番大切にしながら、今後も私たちの活動が少しでも生きづらさを抱える人々が笑顔になれる一助になればと願っています。

今後とも、ご支援ご鞭撻いただきますよう、心よりお願い申し上げます。

令和4年10月
一般社団法人 異オネットワーク代表理事
谷川 知

2. 異オネットワークのミッション

多様性が認められる社会の実現へ

見えない障害といわれる発達障害（神経発達症）…

当団体は、発達に偏りがあり、できることとできないことの差が大きく、周りの人や環境との間に様々な困りごとが起き、生きづらさを抱える人たちやその家族の会として発足しました。

発達がアンバランスな人たちは、その凸凹ゆえにみんな一様に同じことを求められる学校や会社、社会にフィットせず自己肯定感を損ないがちで、不登校や引きこもりになる場合も多くあります。また、突出した才能をもつギフテッド、タレンティッドや発達障害との併発である2E（Twice Exceptional：二重の特別支援を要する子ども）の存在は日本においてはまだまだ知られてはおらず、適切な支援にたどりつけません。

私たちは、多様な特性を持つ人たちが社会の中で尊重され、ひとりひとりが力を発揮できるダイバーシティ社会の実現を目指し、発達障害について社会のすべての人に啓発すること、生きづらさを抱える子どもたちや保護者そしてすべての人が安心安全な環境の中で過ごせることを願って活動しています。

一般社団法人異オネットワーク

法人役員

代表理事 谷川 知

理事 直江 和子

理事 伊藤 いつか

3. 異オネットワークのあゆみ

2018年度	2月	市民活動団体 異オネットワーク設立
	4月	セミナー「ボクが学校に行かなかったワケ」「発達凹凸をもつ人たち」 どうだの会・茶話会
	8月	セミナー「不登校は不幸じゃない in 大津」
	9月	セミナー「よくわかる発達障害の基礎知識」
	3月	発達障害当事者の座談会開催
2019年度	6月	(一財)滋賀県民間社会福祉事業職員共済会地域共生型社会推進事業助成金受託。 フリースクールの開校に向けて準備を始める。
	9月	学校にフィットしない子どもたちのためのフリースクール TRIUMPH 開校
	3月	トライアンプ 第1回ワクワク研究発表会開催
2020年度	4月	一般社団法人化 新型コロナウイルス感染拡大で休校（オンライントライアンプ開催）
	6月	トライアンプ週2回開校へ
	8月	セミナー 「不登校を知る 2020～コロナ禍の今、親として、支援者として子どもに何ができるか」
	10月	カフェアンビシャス明日都に出店（以後毎月第1・3・5金曜日開催）
	12月	セミナー 「ギフティッドの子どもの将来を考える～学校にできること、親にできること～」
	3月	セミナー「学習障害を知る～学びの違いをもつ人たちの困り感と支援」 トライアンプ 第2回ワクワク研究発表会開催
2021年度	4月	トライアンプ 性教育「自分の心と体の守り方講座開催」
	7月	マンスリーサポーター募集
	8月	Facebook Live 異才の不登校駆け込み寺 開催 (不登校になりたての頃、通信制高校について、不登校からの海外留学)
	11月	大津市市民活動センター主催大津・SDGs 協働支援チャリティプロジェクト 2022 「2030年に大人になる子どもや若者とともに in 大津」フォーラムに代表登壇 トライアンプ&親の会シャイン BBQ 交流会 vol.1 開催@竜王妹背の里
	12月	セミナー「何を大切にするか-ギフティッド児の親ができること-」 セミナー「2Eの子どもの子育て～得意なことと苦手なことの間で～」
	1月	NHK 総合おうみ630 「優れた能力をもっていながら不登校になる子」放映 NHK 総合ニュースほっと関西 「才能あるこどもたち 困難を抱く実態」放映
	2月	NHK ワールド「Helping Children Explore Their Natural Talents」放映
	3月	FM しが電話出演 トライアンプ 第3回ワクワク研究発表会開催

4. 事業報告

① 大人の発達凹凸の会 IROIRO～イロイロ～

i 活動の概要

開催日	参加人数(うちスタッフ)	場所	備考
4月18日(日)	13名(うちスタッフ4名)	Zoom	
8月22日(日)	17名(うちスタッフ3名)	Zoom	
12月19日(日)	14名(うちスタッフ4名)	Zoom	
3月13日(日)	15名(うちスタッフ3名)	Zoom	
計 4回	のべ 59名(うちスタッフ14名)		

ii 活動の目的

発達凹凸を抱える大人の方が集まり、お互いの特性を尊重しながら、日頃の困りごとやその解決策を話し合える場を創り、発達障害の方の生きづらさの緩和につなげる。

iii 対象者

- ・発達障害の診断がある人
- ・発達障害の診断はないが、自分でそうかも…と思っている人
- ・発達障害グレーゾーンと思われる人
- ・生きづらさを抱える人

18歳以上（興味のある18歳未満の方も保護者の承諾があれば参加できます。）

iv 活動内容

5～6名のグループに別れて日常の困り事などを話し合う。模造紙を使用し、意見を書き記しながら、最後に代表者が発表を行い、参加者全員で共有化する。

各グループに進行役のファシリテーターを必ず1名をおく。安心・安全な場を提供する為にルール(他者を否定しない、自分の意見を押し付けない等)を明確化し、ルールに反する行動があればファシリテーターが上手に軌道修正を図る。

新型コロナウイルス感染防止のため、Zoomによる開催とした。それにより、全国からの参加者が集まった。Zoomにおいてもブレイクアウトセッションを設けることで、少人数での話し合いが可能となり、対面開催と同様に各自が自分の意見を話す時間が十分にとれるようにした。

v 活動の効果

- ・「同じ悩みを抱えているのは自分だけじゃなかった」と気付く事により、安心感を得ることができた。孤独からの解放や仲間意識が自然と芽生える効果
- ・発達障害に関する病院・薬・福祉制度等の知識の獲得。
- ・自分の考えと異なる多様な価値観を知る事による、自らの認知の歪みへの気づき。
- ・上記の効果による生きづらさの低減。
- ・総じて自助の場（セルフヘルプグループ）としての役割を果たし、安心安全な場として気兼ねなく自分の思いを伝え、他者の話を聞く場として有効に機能した。

vi 参加者からの感想

- ・悩みを共有できた
- ・対応方法が参考になった
- ・自分以外の方々がどういう思いで仕事をしているのか、悩みは何か知れてよかったです
- ・自分の問題解決に役立つ良いきっかけとなりました。
- ・初参加ながらリラックスして話をすることができました。
- ・自分とは異なる困り感を持った人や、新たな考え方をを持った人と関わることが出来参考になった。
- ・悩んでいる人がたくさんいて私だけじゃないと思うとホッとしたと同時に、自分も頑張ろうと思います。
- ・笑顔とともに温かく迎えていただき、嬉しかったです。
- ・自分を殺しすぎない事や 大丈夫だよと言ってくれて心が軽くなった。
- ・所属がないだけに孤立し、誰かと繋がりがたかった自分がいたことにも気が付きました。たくさんの気づきと気楽さと楽しさをありがとうございました。
- ・自分に正直になることが大事である。
- ・特性、個性の理解や他者の理解
- ・発達障害に拘らず、生き方や生きる姿勢やあり方を学べる非常に素晴らしい講座でした！生きづらさを抱えている人に教えてあげたいです。

② 不登校の親の会 WAKUWAKU～ワクワク～

i 活動の概要

開催日	参加人数(うちスタッフ)	場所	備考
6月10日(木)	10名(うちスタッフ2名)	大津百町館	主な話題:進路について
10月28日(木)	5名(うちスタッフ2名)	大津百町館	主な話題:いじめ、日頃の関わり方
12月16日(木)	4名(うちスタッフ2名)	草津キラリエ	主な話題:青年期の難しさ
2月24日(木)	5名(うちスタッフ3名)	草津キラリエ	ぜんざい作り 主な話題:学校との連携
計 4回	のべ 24名(うちスタッフ9名)		

ii 活動の目的

発達障害や不登校、行き渋り傾向など困り感のある子どもを抱える保護者等が集まり、日頃の困りごとやその解決策を話し合える場をつくる。子どもの生きづらさの緩和につなげ、保護者の息抜きを図る。

iii 対象者

- ・発達障害の診断がある子どもをもつ保護者
- ・発達障害グレーゾーンと思われる子どもの保護者
- ・不登校や行き渋り傾向の子どもの保護者
- ・その他子育てで困っていることがある保護者

iv 活動内容

- ・日ごろ困っていることを共有する。
- ・経験者からの経験談を聞く。
- ・進路先、医療や保健との付き合い方、学校とのやりとり等の情報交換
- ・テーマを設けて、勉強会を行う。
- ・お茶を飲みながらの忌憚のないおしゃべり。

v 活動の効果

今年度より、より多くの方にご参加いただくため、大津市と草津市の2か所で不登校親の会を開催することにしました。大人だけの空間で、保護者の方もリラックスして日ごろの困りごとなどをお話していただきました。

親の会は、以下のような機能・効果があると考えております。

- ① 保護者の情報交換の場（勉強のことや学校との連携、発達特性のことなど）
- ③ 保護者同士のエンパワの場（共感しあうことで保護者を勇気づけ、孤立を防ぐ）
- ④ 保護者のストレス発散（子ども抜きで日ごろのしんどさを吐き出し、楽になる）

また今年度の親の会では、特に中学校3年生時の不登校の子の進路について多くの悩みが寄せられました。学校では不登校生徒の進路に関する情報がとても少なく、保護者が自分で情報を取りに行かなければならない現実があります。通信制高校ってどうなんだろう？進路の情報収集はいつから始める？子どもに進路の話の切り出しにくくて…など、たくさんの悩みを皆で一緒に考えることで、少しでも保護者の負担を軽減する機会になったように感じます。

また、不登校になりたての子どもをもつ保護者の方は、先に行く方からのアドバイスも受け、同じ立場同士、共感しあうことで保護者の孤立を防ぐ役割を果たしていると感じます。日ごろ、不登校の子どもとの閉鎖的な生活をしている保護者の方が多いので、このような親の会で息抜きをすることは、保護者のストレス発散にもつながっているようです。

vi 参加者からの感想

- ・ 中学に入ってから部活も体験入部でつまづいて、入部できずに不登校になったので、地元の横の繋がりがなくなり、親もしんどかったので今日は参加させて頂き気持ちが楽になりました。
- ・ 不登校を経験された方の進路や進学の話聞いて良かったです。
- ・ SNSなども見ますが、やはり実際に話せるのはいいですね。
- ・ 不登校の子をもつ親の様々な経験が聞いて、自分の頭の整理になりました。このような交流の場があり有難いです。
- ・ アンビシャスのコーヒーとても美味しかったです。ごちそうさまでした。
- ・ 同じ悩みをもった方のお話が聞いて良かったです。
- ・ 聞きたい話ばかりで時間がすぐに過ぎました。親が楽しそうにする、メラビアンの方の話は自分には耳の痛い話でした…

③ 生きづらさを抱えるギフテッド・2E の子をもつ親の会

SHINE～シャイン～

i 活動の概要

開催日	参加人数(うちスタッフ)	場所	備考
5月16(日)	20名(内スタッフ4名)	オンライン・百町館	
7月31(土)	17名(内スタッフ6名)	オンライン	
9月19日(土)	13名(内スタッフ4名)	オンライン	
12月4日(土)	15名(内スタッフ5名)	オンライン	
2月27日(日)	11名(内スタッフ4名)	オンライン	
計 5 回	のべ 76名(うちスタッフ23名)		

ii 活動の目的

生きづらさを抱えるギフテッドや、学習障害や ASD などの発達障害を併せもつ 2E の子どもは、学校や社会の中で困り感が強く、不適応をおこしがちである。そういった特性ある子どもを育てる保護者が集まり、日頃の困りごとやその解決策を話し合ったり、研修することにより、子どもへの関わり方について学びを深め、子どもの生きづらさの緩和につながる保護者の息抜きを図ったりする。

なかなか日常生活の中では、周りに困りごとを理解されたり、相談できる人がおらず、孤独になりがちなため、同じような特性をもつ子どものいる保護者同士の関わり合いを重視する。

iii 対象者

- ・ 生きづらさを抱えるギフテッド
- ・ 2E（ギフテッドと発達障害を併せもつ特性）や、学校や社会の中で困り感の強いお子様を育てる保護者
- ・ ギフテッド、2Eともに医師による診断がない場合が多いため、診断や IQ の数値に関わらず、特性を理解したり、子どもがより健全に生きていくための方策を話し合いたい保護者も含めて運営する。

iv 活動内容

- ・日ごろ困っていることの共有をする。
- ・経験者からの経験談を聞く。
- ・4-5名程度の小グループで話し合いを行った後、全体でシェアするスタイルで実施。
- ・同年代の子の親を同じグループにして、年齢ならではの悩みを共有できるよう配慮。
- ・話題は、特性の理解、知能検査、学校選び、その子に合った環境づくり、ホームスクーリング、得意を伸ばす、好きな事の見つけ方など。

iv 活動の効果

「同じ悩みを抱えているのは自分だけじゃなかった」と気付く事による安心感。孤独からの解放。仲間意識。

ギフトド・2Eに関する知識の獲得。

自分の考えと異なる多様な価値観を知る事による自らの認知の歪みへの気づき。

そういった種々の効果による生きづらさの低減。

自助の場(セルフヘルプグループ)としての役割を果たす。

v 参加者からの感想

- ・色々な方の体験談を聞いて良かった。自分だけかと思っていたことを共有できて良かった。
- ・進路選択に悩んでいます。本日のお話はとても参考になりました。一つの道を選択してもそれが続くとは限らないという点は盲点でした。特性を考えると確かにそうだと思います。親にはそれに対応する柔軟さが必要だと思いました。
- ・親としてできること（合う環境をその都度考える、どんな時も味方であるなど）を先輩方の経験談から学びました。乳幼児や小学生の時期のお子さんの様子も、共感できることが多く、お話が聞いて良かったです。

④ 大津オルタナティブスクール TRIUMPH～トライアンプ～

i 活動の概要

毎週水・金曜日 10:00～13:00 大津百町館にて開校。

のべ参加人数 688人 (子ども 343人、スタッフ他 345人)

ii 活動の目的

教育や福祉の有資格者や発達に特性のある子どもをもつ親がつくるオルタナティブスクールで、いじめや発達凹凸、その他の環境要因によって不登校となった子どもの安心安全な居場所、学びの場をつくる。「エネルギーをチャージし、自らの学びへ」を念頭に、子どもの状態に合わせて、得意なことや興味のあることを軸に探求学習を行い、将来の精神的な自立を促す。保護者や子どもの希望があれば、子どもが在籍する学校と連携し、子どもの育ちと学びをサポートする。

iii 対象者

不登校状態の小中高校生

iv 活動の内容

ボードゲーム、EQ(こころの知能指数)ワーク、BBQなど屋外活動、調理実習、遠足、教科学習、不登校の子どもたちが運営する自家焙煎珈琲のお店(後述)の手伝い等

v 所感および活動の効果

新型コロナウイルス感染の影響もあってか、生徒数が伸びない時期もあったが、秋口以降、着実に問い合わせや見学が増え、不登校児童生徒の日中の居場所としての役割が対外的にも認識された一年となった。

当スクールの「子どもの好きや得意をサポートする」というコンセプトと、現在文部科学省で実施されている「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議」や「ギフトッド」に関する社会的な認知度のアップとあいまってNHKの番組で取り上げられこともあった。不登校と才能がイコールではなく、取り上げ方に難しい面もあったが、不登校支援のひとつの面として、子どものもつ力を学校以外の居場所で最大限にサポートし、学校の学習にはそぐわなくても、ありのままが良いという私たちの想いが少しずつ広がっていくことを感じた。

活動としては、不登校の子どもたちが運営する自家焙煎のお店「カフェアンビシャス」を市民活動センターのご協力で、浜大津明日都にて毎月1・3金曜の11:30～13:00に開店することになり、子どもたちがリアルなお店屋さんを運営することで、楽しみながら社会と触れ合っている。ほぼ、ひきこもり状態であった子どもが、お店屋さんはやってみたいと参加するようになり、珈琲のドリップやお客さんから注文をうけて、金銭のやり取り

をするなど、ホンモノの体験をすることで、家庭から外に出て、大人やトライアンプの子どもたちと交流をはじめることができたなど、効果をあげている。

通常の活動の中でも、トライアンプに参加することで、学校ではひとりぼっちであったという子どもが学年を越えた子どもとの交流の中で精神的に安定し、「楽しい」という時間をもてることは、健全な成長のためにも非常に大切なことであると思う。学校でみせることのない子どもの側面がトライアンプではみられ、学校連携の中で子どもの様子を話すと驚かれる場面も多くあり、学校以外の居場所の必要性がさらに認識されていくように、今後も活動を充実させていきたい。

vi 課題

【活動場所について】

生徒数が増え、手狭になったこと、かつ聴覚に過敏で大人数を好まない特性の子どもが比較的多いため、より広い場所に移転したい。子ども達にとって家庭とも学校とも違う安心安全な居場所で、居心地の良い環境のなか健全な成長を促せる場所としたい。

【スタッフについて】

不登校児童生徒を抱える親や子どもが発達上の特性をもつ親が中心となってスタッフとして運営しているため、不登校の子どもへの理解はあるが、そもそも自分の子どものことで多忙になる傾向があり、安定したスタッフの配置が難しい時期が生じる。 今後は多方面からボランティアを募り、運営に協力してもらうようにしたい。

【月謝の減免】

新型コロナ禍により各家庭の経済状態が悪化しているケースが多く、月謝の負担がきびしく通えなかったり、通う回数を減らさざるを得ない家庭がある。 協会としてはクラウドファンディングなども実施したが、なかなか難しい。自治体によっては、フリースクール費用の減免をおこなうところもあり、会として行政との連携を密にし、市内においても減免の措置がとられるように動いていきたい。

【合理的配慮】

学習障害と不登校については密接にからんでおり、トライアンプに参加する子どもの中にも、知的には問題ないが、読み書きに苦手さをもつ子どもがいる。本来であれば、学校でICTを利用しながら、合理的配慮のもと学習をすすめるべきであるが、なかなか理解がともなわず、不登校や行き渋りにつながっている。また、入試においても当然なされるはずの合理的配慮を獲得するために、保護者が奔走しなければならない状態が依然として続いている。 行政との連携の中で、学習障害をもつ子どもたちへの合理的配慮をすすめていくよう具申していきたい。

⑤ 不登校の子どもたちが運営する自家焙煎珈琲の店

カフェ・アンビシャス

i 活動の概要

毎月第1・3金曜日 11:00~13:00

明日都浜大津市民活動センター前にてブースをつくり、自家焙煎店を出店。

ii 活動の目的

別事業であるオルタナティブスクールの発展的課外活動として、本格自家焙煎のコーヒーをお客様に提供し、子どもたちのコミュニケーション能力や働く能力を育成し、生きる意欲を創造する。

iii 対象者

不登校状態の小中高校生

iv 所感および活動の効果

2020年10月より、明日都浜大津の市民活動センター様のご厚意により、センター前にブースを設け、自家焙煎珈琲のお店を出店。地道な活動であるが2年続いている。

長くひきこもり状態だった小学生が、お店のお手伝いをするというミッションをきっかけに外に出るようになった。最初の頃は子どもたちがカフェ運営にチャレンジをすることを興味本位で見守っていたお客様も、次第とコーヒーの味を好んでいただき、リピーターになってくださるようになった。

特に大津市社会福祉協議会へは、子どもたち自ら足を運んで売り込みをするようになった。大人たちの温かく見守る姿勢が子どもたちに安心感と勇気を与えてくれ、このような積極的な行動に影響を与えていると感じている。

今年度は、珈琲販売の横で、トライアングルの活動で作った手作りせっけんやキャンドルも販売した。

少しずつでも人と関わったり、自分が役に立ったという経験をすることは、自立への大事な一歩だと考える。学校にはなじめなくとも、こうして地域で安心できる大人の見守りの中で勇気を出して働くことは、子どもたちにとって大きな学びであり、また保護者にとっても成長を目で確認でき安心感につながるだろう。

当事業は、不登校で自己肯定感が低下し、自分にとって「できること」があると感じたり、他者から感謝されたり、認められたりすることが乏しい子どもたちが、再び、やりがいや生きがいを感じ、生きる意欲を創造する大切な役割を果たすものだと確信している。

⑥ セミナー事業

i 活動の概要

開催日	セミナータイトル	講師	場所	参加人数 (うちスタッフ)
12月4日(土)	「何を大切にするか-ギフテッド児の親ができること-」	上越教育大学 大学院准教授 角谷詩織先生	オンライン開催	44名 (5名)
	「2Eの子どもの子育て~得意なことと苦手なこととの間で~」	(一社)異オネット ワーク代表理事 谷川 知		
計 1回			のべ44名(うちスタッフ5名)	

ii 活動の目的

多様性を認め合える社会の実現という当会の目的に照らし、さまざまな特性をもつ人たちについて多くの人に知ってもらうための啓発活動として、本セミナーを開催した。

iii 対象者

全国 (Zoom によるオンラインセミナー)、近隣自治体の保護者、支援者など。

iv 活動の効果

生きづらく育てにくいギフテッド児の子育てについて親ができることを具体的に解説いただいた。家庭で取り入れられることがありそうだということや、親自身のウェルビーイングを高めることが結果的に子どもにいい影響を与えるということを感じ取った参加者が多数いた。ギフテッドについての理解とその対応方法を参加者と共有することで、適切な支援がすすんでいくことを期待したい。

v 参加者からの感想

- ・ 親の well-being を高めることの大切さ。あとは、子どもの困り感を軽く受け流さない。本当に困っているという事実を事実として認め、学校とも率直にシェアしていく。
- ・ 完璧主義で理想がとても高い我が子。思うようにいかず、過剰に傷付きに苦しむ事が多いようです。そんな時、親としてどう接してやれば良いのか、どんな言葉をかけてやれば良いのか、悩む場面が多いので講演会の内容は、とても参考になりました。「ハグ」というワード。かけてやる言葉が見つからない時、私はただ子どもを抱きしめるのですが、それでも良いのですね。皆様との繋がりに救われる思いです。
- ・ ”角谷先生の本は本当にわかりやすいです。もう少し早い段階で子の特性に気づいてあげられたら、楽だったかもしれないな…という親としての自責の念もあります。
- ・ ”ギフテッドのメンタルに対して、日常で使えるアドバイスが多く良かった。既に深く傷ついている子に対しての対応もあと良かった。”

5. 決算報告

貸借対照表

令和4年3月31日

【単位:円】

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金及び預金	636,986	未払金	178,824
		前受金	300,000
未収金	81,000	預り金	22,318
その他	0	役員借入金	626,604
2. 固定資産		2. 固定負債	0
投資その他の資産		負債合計	1,127,746
繰延べ資産	212,030	(純資産の部)	
有形固定資産	341,585	一般正味財産	143,855
その他		代替基金	0
		その他	0
		純資産合計	143,855
資産合計	1,271,601	負債・純資産合計	1,271,601

損益計算書

(自令和3年4月1日 至令和4年3月31日)

【単位:円】

科目	金額	
(経常損益の部)		
経常収益		
受取寄付金	178,835	
受取会費	1,341,815	
受取民間助成金	1,485,926	
受取国庫補助金	7,000	
受取利息	2	
雑収益	38,540	
	経常収益計	3,052,118
経常費用		
事業費用		
謝金	1,856,000	
通勤費	0	
印刷製本費	11,430	
交際費	760	
旅費交通費	110,164	
通信運搬費	5,712	
消耗品費	231,802	
賃借料	159,340	
保険料	6,804	
支払手数料	181,790	
租税公課	600	
新聞図書費	14,330	
広告宣伝費	0	
雑費	165,930	
	事業費用計	2,744,662
管理費用		
業務委託費	52,536	
印刷製本費	990	
通信運搬費	9,882	
交際費	710	
消耗品費	17,895	
修繕費	22,480	
研修費	23,100	
支払手数料	33,899	
新聞図書費	3,708	
雑費	-1,599	
	管理費用計	163,601
	経常費用計	2,908,263
	経常利益	143,855
(経常外損益の部)		
経常外収益		
税引前当期純利益	0	
法人税、住民税及び事業税	0	
法人税等調整額	0	
当期純利益		143,855

6. ご協力をお願い

○ボランティア大募集！！

異オネットワークでは、一緒に活動し、学び高め合える仲間を募集しています！

- ・各種親の会、自助会、セミナーなどの企画・運営
- ・バックオフィス事務、助成金申請書類などの作成事務
- ・大津オルタナティブスクールトライアンプでの子どもたちとの関わり

(毎週火・水・金曜日)

【ボランティアさんの声】

二年ほど前から親の会に参加するようになり、今年からお手伝いするようになりました。とはいえ、活動報告を SNS に投稿する程度で貢献しているとはいえませんが、今後も同じ悩みを抱える方のお力になれたらと考えております。



I R O I R Oのお手伝いをさせていただいております。私自身、発達障害の今中学 1 年生の息子を育てていることもあり、成人の発達障害をお持ちの方々のお話を聞かせて頂けることはとても貴重な経験になっています。



トライアンプのスタッフとして、子ども達と一緒に絵を描いたり物作りをしたりと楽しく活動をさせてもらっています。みんなの持つ感性と才能の素晴らしさに触れ、いつもパワーをもらっています。



○ご寄付をお願い

当会は各種助成金をいただきながら運営しておりますが、まだまだ財政基盤が十分ではありません。今後さらに安定した運営をするためにも、ご寄付のご協力をお願いしています。特に、経済的な事情でフリースクールに通えない子どもたちのためにご支援をいただけたら幸いです。

① Paypal で寄付する

https://paypal.me/isainw?locale.x=ja_JP



上記ホームページの「送信」→金額を入力→「続行」→「今すぐ支払う」でお支払いください。

※PayPal のアカウント設定が必要です

② 口座振込で寄付する

【振込先】

滋賀銀行 本店営業部

普通 623995

名義人：一般社団法人異オネットワーク

ご寄付いただきましたら、異オネットワークまでご連絡いただけますと幸いです。確認後、改めて御礼の連絡を致します。

【連絡先】 isai_nw@outlook.jp

多様性を認め合える社会の実現のために
活動します



一般社団法人

異才ネットワーク

〒520-0043

大津市浜大津4-1-1 明日都浜大津1階

(市民活動センター内MailBox51)

Tel: 050-5374-0311

Mail: isai_nw@outlook.jp

